

TOTAL-Tが教える

HOW TO AIR BRUSH

AIR BRUSHをはじめよう! -2003- VOL.06



夏に向けて!

ワンポイントレッスン

顔を描こう!

キスについてのお勉強

BODY PAINTに挑戦!

<http://total-t.com>

はじめに・・・

夢の“AIRBRUSHのHOW TO本” VOL.06

※ ビデオ CD  “ごあいさつ” を参照下さい。

今回は5月末に発行のVol.06（第6号）です。
多くの読者が全国にいると思うと、期待に添えなければ・・・
と変なプレッシャーを感じながら、この原稿を書いております。

私はAIRBRUSHに関わったおかげで、ここ数年、休みらしい休みがなく、
盆や正月も関係ないといった感じ・・・。
近頃の不景気の世の中、こんなに忙しいのは喜ばしいことです。
ここまで仕事しなくてもいいのではないかと考えてしまうくらいです。
しかし、やりたい事は、まだまだたくさんあります。

- AIRBRUSHの楽しさをもっと伝えていきたい
- AIRBRUSHの世界をもっと発展させていきたい
- 絵は誰でも楽しめる！描けるようになる！ということを皆さんに伝えたい etc.

このようなことを実現させるために、今後もがんばっていきたいと思っております。

この本は私にとっても、皆さんにとっても、夢を実現させるための本ではないかと考えています。
今回も皆さんと一緒に、楽しみながらAIRBRUSHのことについて学んでいきたいと思います。

TOTAL-T 竹島 敏也



もくじ

はじめに・・・	0
もくじ	2
まずはいっぶく・・・	3
第1章　ひと言のコーナー	4
「がんばってるねっ！」	4
報告！	5
第2章　お勉強のコーナー	6
夏に向けて・・・	6
第3章　実践のコーナー	8
第4章　ワンポイントレッスン	9
第5章　オマケの使い方	10
第6章　お勉強のコーナー	11
第7章　顔を描こう！	13
第8章　TOOL のコーナー	14
第9章　BODY PAINT に挑戦！	16
弟子の独り言・・・	18
この本と共に勉強していきたい方のための道具選び	19
ビデオ CD とオマケについて・・・	19
編集後記	20

まずはいっぴく・・・

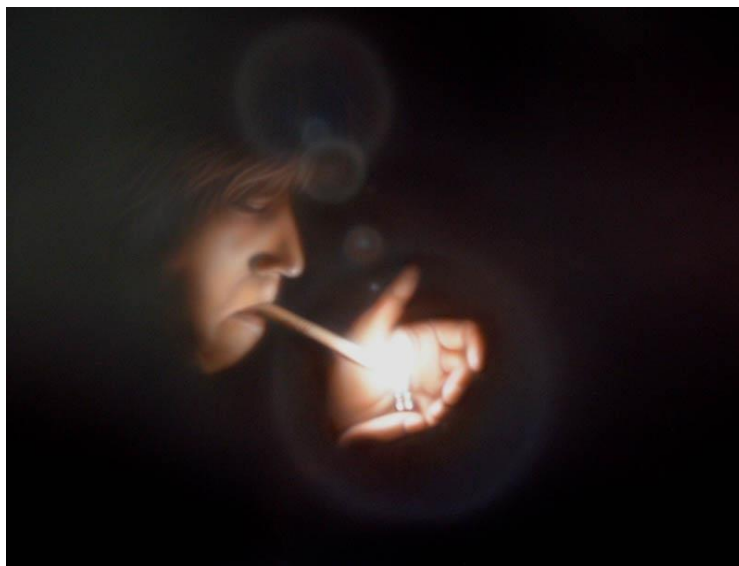
いつものようにまずはいっぴくです。

私はいつも仕事をはじめる前に、必ずいっぴくしています。

そうすることで、気持ちを落ち着けて、じっくりと、とりかかっているのです。

気持ちが不安定な状態だと、良い仕事、良い作品が出来ないと思っていますのです。

だから、まずはいっぴくなのです。



上の絵は、第5回 MIST に出展した作品です。

MIST はインターネットの中で発表する、AIRBRUSH 作品の展示会です。

久々に開催された今回のテーマは「光」でした。

素直な自分の気持ちで光をあらわしたら、こんな作品となりました。

この絵を見て、私の気持ちが皆さんに伝わっているでしょうか？

この絵の「光」は、いろんな意味での光です。

あえて、その意味は伝えませんが、

皆さんそれぞれの見方で「光」を感じて下さい。

喜ばしいことに、今回の出展者の中には、

うちの AIRBRUSH 教室を受けられた方やこの本の読者の方もいらっしゃいます。

MIST に出展される方は、自分を磨くという意味で出展される方が多いと思うのですが、

何かをきっかけとして、自分自身を磨いていっている姿に共感します。

次回の MIST はいつ開催されるか、いまのところ未定ですが、

皆さんもいつの日か、出展されてみてはいかがでしょうか？

第1章 ひと言のコーナー

「がんばってるねっ！」

※ ビデオ CD  “ひと言のコーナー” を参照下さい。

ここ最近感じていることは、みんながんばっているということ。

メールや掲示板のかきこみ等から、皆さんのがんばっている様子が伺えます。

この本の読者にかぎらず、仕事場にやって来る方の話や様子を伺うと、それぞれにがんばっているんだな—とつくづく感じるこの頃です。

そんな方々にねぎらいの言葉として、今回は「がんばってるねっ！」と言、言わせてもらいます。

前回までは、もっと勉強しろっ！とかというふうに、偉くもないのに偉そうなことを言っていたような気がします。

今回のひと言で、皆さんに少し安堵感を持ってほしいというか・・・私自信が安堵感を持ちたいのかもしれません。

毎日、忙しい日々を送っていると、ストレスが溜まって、気がおかしくなってしまうがちです。

まわりに流されず、あせらず、ゆっくり、マイペースですすめることによって、平静をとりもどし、ゆとりをもった生活を送ってほしいと思っていますのです。

自分は大丈夫！そんな場合じゃない！もっとがんばる！と思っている人でも、いつかは、そんな気分になることもあるはずです。

調子にのっている人、今がんばりたい人は、その調子でがんばっていけばいいと思います。

でも、ちょっと疲れた人は、無理してがんばるより、休憩をとって、平静を取り戻し、再びがんばっていいと思うのです。

このひと言「がんばってるねっ！」を聞いて、がんばるもよし！休むもよし！ということです。

私の場合は、このひと言で気を落ち着けながら、本の原稿作りを進めていきたいと思います。



報告！

※ ビデオ CD  “報告” を参照下さい。

皆さんに報告です。 弟子の UMI が卒業しました！

昨年の 10 月からこちらに来ていた弟子の UMI が今年の 5 月のゴールデンウィークで卒業ということになりましたので、ここでご報告させていただきます。



この半年間、UMI は大変よく学んでくれ、また仕事もしてくれました。

この本の中でも、キャラクターとなるくらいに重要な人物であり、私の右腕としても重要な人物となってくれました。

1 年の約束で始まった弟子入りでしたが、UMI は技術の習得も非常に早く、仕事も一生懸命に手伝ってくれたというのもあって、今回の卒業に至ったのです。

帰った後は、環境をつくることから始めないといけないために、すぐに独立、開業というわけにもいかないと思いますが、UMI ならきっとやってくれるはず！と信じております。

完璧状態になったからという卒業ではないので、これからは自力で切り開いていく力を身につけていかなければいけませんが、彼ならその壁も乗り越えてくれると思います。

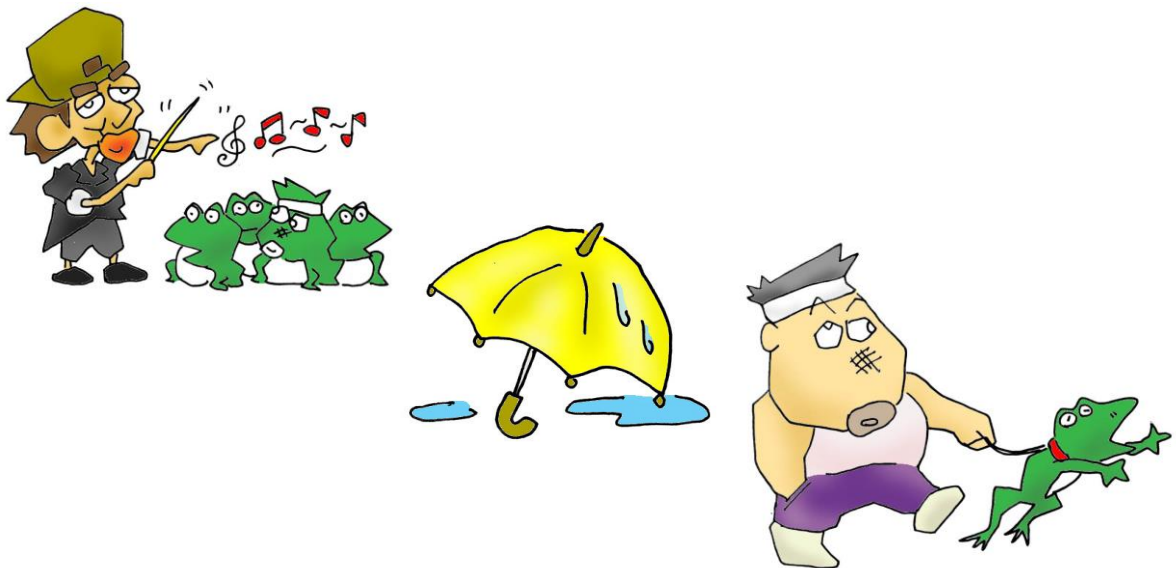
皆さん！これからの UMI を暖かく見守ってやって下さい。

TOTAL-T としても、うちから巣立った UMI の成長ぶりを楽しみにしている次第です。

第2章 お勉強のコーナー

夏に向けて・・・

※  ビデオ CD “お勉強のコーナー” を参照下さい。



春から梅雨、梅雨から夏と季節は変わっていきます。

気温や湿度が変わることによって、塗装するということに影響が出てきます。

暖かくなってくると虫もたくさん出てきます。



挿絵：Shigeru Yamamoto

塗料・シンナー・硬化剤等には、乾燥時間がある・・・

冬

●速乾型

●超速乾型

春・秋

●標準型

夏

●遅乾型

●超遅乾型

●超々遅乾型

塗装状況・時期・気温等に応じて使い分けが必要です。

-----ワンポイントアドバイス-----

- ☐ 塗った色がガサつく場合は、乾燥を遅くする。
- ☐ 垂れが心配なら、乾燥を速くする。
- ☐ ゆず肌（塗装肌）を防ぎたいなら、乾燥を遅くする。
- ☐ 虫が付かないようにするには、乾燥を速くする。
- ☐ 他

塗料を調整することにより、理想の塗装が可能になるということです。

また、スプレーガンの口径や空気圧力、ガンのさばき具合、色の重ね具合等によっても、仕上がり具合は変化します。

最初はこんなこと知らないのが当たり前！私も知りませんでした。

でも、こだわりが出はじめると、このようなことに関心を持ち始め、次第に工夫するようになっていくのです。

何事も、経験を重ねていくこと、研究や失敗を重ねることによって徐々に上達していくものと思っています。

私もいまだに研究中、皆さんも経験を重ね、研究し、理想の塗装（PAINT）が出来るようになっていって下さい。

第3章 実践のコーナー

※ ビデオ CD “実践のコーナー” [1](#) [2](#) を参照下さい。



“ヘルメットにPAINT ART”の続編を行う予定でしたが、誠に申し訳ございません！
今回は多忙の為、次回にまわさせていただくことといたします。
この本と同時にヘルメットPAINTされている方、ゴメンナサイ・・・。



第4章 ワンポイントレッスン

※ ビデオ CD  “ワンポイントレッスン” を参照下さい。

ポーッと薄く描けるのが AIRBRUSH の特徴！

ビデオ CD で実際にやっているように、ポーッと薄く描けるのが AIRBRUSH の特徴です。

ペンや筆だと、こんなことは簡単に出来ません。

他の人はどうか分かりませんが、私の場合は、AIRBRUSH で絵を描く時に、消しゴムなんかは使いません。

薄く描いていけるということは、絵を徐々に少しずつ進めていけるということ。

薄い状態で全体のバランスを見ながら描いていけば、位置がたとえ間違っている、薄い状態で訂正が可能ということなのです。

このことを考えると、こんなに便利な筆（AIRBRUSH）は他にないのではないかと
思うのです。

せっかく、このような特徴の筆（AIRBRUSH）を持っているにも関わらず、AIRBRUSH を始める多くの方は、濃い色を入れ、強く描いていこうとするから、うまく描けない、強いラインから描こうとするから、うまく描けないのです。

色に関しても、キャンパスに対して弱い色から使用していくようにすれば、大失敗にはならないはずです。

キャンパスが白なら、白に近い色から描き始める。

キャンパスが黒なら、黒に近い色から描き始める。

今だから言えるのですが、これは基本中の基本だと思います。

特別な絵の世界は別として、通常の絵の世界なら、たぶんこの基本は同じなのではないかと私は考えています。

AIRBRUSH だから特別なやり方があるというふうには思わず、絵の描き方の基本を学ぶという意味で、絵の描き方を説明した本を本屋で購入し、勉強するのも良い事なのではないかと思っています。

第5章 オマケの使い方

※ ビデオ CD “オマケの使い方”   “1” “2” を参照下さい。

今回のオマケは小粒のラメです。

ラメの使い方もありますので、いろいろ遊んでみましょう。



☆ ラメの使い方・注意点 ☆

- ラメ自身には付く力がないので、クリアーに混ぜて使用すれば良い。
- ラメにも荒さがいろいろあるので、それ相応のスプレーガンを使用する。
(今回のオマケのラメは口径が 0.4 くらいであれば、楽に通ります)

☆ ラメをキレイに見せる方法 ☆

最後にクリアーでラメを保護（コート）し、ラメ（粒）の段差をとることによって、キラキラ感が倍増します。

クリアーを厚く塗るということだけではなく、磨きの技術もあれば、よりきれいにラメを輝かせることが出来ます。

第6章 お勉強のコーナー

※ ビデオ CD  “お勉強のコーナー” を参照下さい。

キスのことについて・・・

塗ることだけでなく、削ることも！

AIRBRUSH をやり始めた人の中には、自動車に描かれた絵がピカピカになっているのを見て感動し、やろうと思った方も少なくないのではないのでしょうか？

私も実はそうでした。

中学生の頃に、どこかの駐車場でハイエースを改造したキャンピングカーの背面に絵が描かれていて、それがピカピカになっていて、「どうやって、こんなのにするのだろう？」と不思議に思い、深く関心を抱きました。

その頃は、そう思っただけで、やるまでには至りませんでした。その事をおぼえているということは、それだけ衝撃的だったのだと思います。

今、そのタネあかしを創造してみると・・・

通常の刷毛や筆で絵を描いた場合は、色の段差が出てしまうために、空気の筆＝AIRBRUSH を使って絵が描かれていたということ。

そして、クリアーの塗料で保護され、それが鏡面仕上になっていたということ。

もうひとつ、素敵な絵が描かれていなければ、話にならないと思うのですが、私の場合は、絵の印象よりも、不思議な感じのほうが強かったので何の絵が描いてあったのか、まったくおぼえていません。

しかし、まんざら変な絵ではなかったのでしょうか！笑。

しかし、一般の絵の世界で、そのようなピカピカの絵が評価されることとなった場合、残念なことには×な様です。

訳として考えられるのは、筆の質感がない！とか、写真のようだ！絵じゃない！模写をする人が多いために、オリジナルじゃない！邪道！というふうになりがちな様です。

評価する人は、筆を自由に扱えても、AIRBRUSH は使いこなせない方がほとんど、ピカピカにする技術なんかは持っていないと思います。

だから、なおさらなのではないでしょうか・・・。

そんなことを考えれば、ますます AIRBRUSH は最先端を行く魔法の筆！これからの筆！と私は思うのです。

AIRBRUSH で描いた絵にクリアーを塗ると、絵が一段と良く見えてくるのを私は冗談半分で“クリアーマジック”とよく言いますが、AIRBRUSH を使うことや、クリアーを塗って良く見えるようになることが絵の世界で認められてないなら、認められるようにがんばればいい！と思っているのです。

これまで絵の世界は紙に描くのが当たり前でしたが、これからは紙じゃなくてもいいと思うのです。人に感動を与えることが出来れば、かたちはどんなものでもかまわないと思うのです。

AIRBRUSH で描いた絵をピカピカにすることを皆さんに勧めているわけではなく、絵の世界で認められていないのなら、それを逆手にとってもいいのではないかとこの考えをここで伝えたかったので。

安易な考えかもしれませんが、普通のことをやっても面白くない！誰もやらないことをやるから面白い！と私は思っているのです。

話が変な方向に進んでいるような気もしてきたので、このへんにしておきますが、ともあれ、削る！磨く！という技術を持っても悪くないのではないのでしょうか？

ペーパーやコンパウンドを使って鏡面にしていく方法を、ビデオ CD の中で説明していますので、ピカピカ仕上げにしたい方は、それを参考にしてください。



第7章 顔を描こう！

※ ビデオ CD  “顔を描こう！（前編）”を参照下さい。

購読者の皆さんは・・・

カラーの人物画等を描きたくて、ウズウズしているのではないのでしょうか？

そんな方のために、少し早いと思うのですが、カラーの人物画を描いていく様子を公開していきたいと思います！

皆さんも実践してみるといいと思っています。

自分でやってみると、ビデオ CD のようには、なかなかうまく進んではいけないと思いますが、それも経験です。

うまくいかなかったら、なぜうまくいかないのかを自分でいろいろと考えてみましょう。

ビデオを撮った時間が非常に長いために、今回は前編として皆さんに公開いたしますが、絵の描き方は人それぞれに違います。

今回の描き方は、その時の私の描き方であり、その時々で違う描き方になったりもします。

芸能人を似せて描く！ したがきもせずに完全フリーで描くということは、究極に高度な技でもあります。

しかし、やっていかなければ上手くはなりません。

難しいことを承知でトライしてみてください。

上手くいなくて当たり前！

やってみることで、きっと何か発見があるはずです。

皆さんからの結果報告を楽しみにお待ちしております。

どこが上手くいって、どこが上手くいかなかったかをお伝え下さい。

そのことを参考に、次号の勉強につなげていきたいと思っています。

第8章 TOOLのコーナー

※ ビデオ CD  “TOOLのコーナー” を参照下さい。

今回は一般の方にはあまり知られていない、AIRBRUSH ハンドピースを紹介いたします。

扶桑精機株式会社というところから出ているものです。

私は、他社から出ていないような種類のハンドピースがあるということに着目しております。



212B

口径 0.2mm ダブルアクション

親指と中指で挟む部分がつぶれているところに着目。



312B (RC-15 付)

口径 0.2mm サイドカップ ダブルアクション

口径 0.2mm のサイドカップということと、簡単に左利き用にもなる。カップのサイズも変更でき口径 0.2mm でフタ付が可能となるとところに着目。



RC-15 サイドカップ 1.5cc



RC-35 サイドカップ 3.5cc フタ付



GP-1（8cc カップと 15cc カップ付）

口径 0.35mm サイドカップ シングルアクション

0.35mm という変わった口径サイズに加え、ちゃんとしたグリップがあるところに着目。



GP-S1（8cc カップと 15cc カップ付）

口径 0.2mm サイドカップ シングルアクション

口径 0.2mm のシングルアクションに加え、ちゃんとしたグリップがあるところに着目。

現在のところ、着目した部分は以上のところでは。

実際に使用してみています、特別な欠点もなく使用しております。

極めていけば、各社の製品において、

まだまだ改良すべき部分は残されていると考えています。

私は、これからも研究を続けていき、いつかはスペシャルな TOTAL-T バージョンの AIRBRUSH ハンドピースが作られることを夢見ております。

私のためのハンドピースではなく、皆さんからの声に反映された、

皆さんのためのハンドピースが作られることを夢見ているので、

遠慮なく、ご要望やご意見をお寄せ下さい。

第9章 BODY PAINTに挑戦!

※ ビデオ CD “BODY PAINTに挑戦!”   “1 2” を参照下さい。

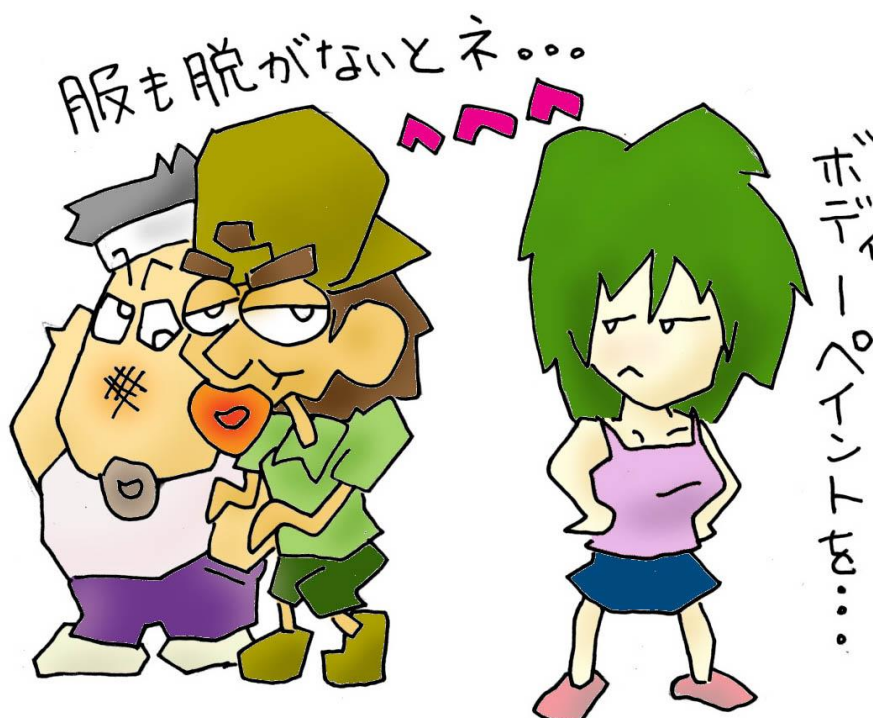
BODY PAINT に挑戦してみました!

最近、ファッションとして、体に刺青を入れる方が多くなりましたよね。

これも時代の流れでしょうか・・・。

AIRBRUSH 教室に来られた方の体に入っているのを見せてもらったこともありますし、同じく AIRBRUSH 教室に来られた、現役でバリバリにやられている刺青彫師の方から聞いた話を考えてみても、どうもこの世の中、体を ART することが流行の傾向、すでに流行なのでは?と考えるようになってきました。

本物の刺青を入れるとなると、入れてもらう時は痛いだろうし、後のことも多少気になると思うのですが、PAINT となると楽しい感じがするのは私だけでしょうか?



AIRTEX 社から最近発売された BODY カラーやステンシルシート（型）を使用して、実験してみたので、そのことを報告したいと思いますので、ビデオ CD をご覧になって下さい。

使用感・・・

ステンシルシート（型）を使えば、簡単に出来るので、楽しい BODY PAINT が誰でも可能となると思いました。

プールや海に行って実験したわけではないのですが、耐水性は良いです。

すぐにとれてしまうということもなく、また、とりたい時はクレンジングクリーム等を使えばすぐにとることが出来ます。

私はフリーで描いてみたくなり、やってみたのですが、塗料が濃く感じました。

そこで成分を考えて希釈をし、調子良くハンドピースから通すことが出来ました。

しかし、商用・商売として体に塗るとなると化粧品のような扱いになり、希釈したものまでも認可を受けなければいけないということになるそうです。

AIRTEX 社の BODY カラーは、ちゃんとした認可がおりていますし、型を使えば何の問題もなく、容易に BODY PAINT が出来ますが、希釈をした場合は成分が変わってくるので、再び認可をとらなければいけないということで、現在のところ、希釈された BODY カラーは予定していないといった電話での回答でした。

ということで、TOTAL-T としては様子を見ながら、BODY PAINT というものを考えていきたいと思っております。

今のところ、ホームページの TOOL コーナーには AIRTEX 社の BODY カラーを上げておく予定なので、試してみたい方はお世話いたしますのでどうぞ試してみてください。

ステンシルシート（型）にしても AIRTEX 社のホームページにデザインが詳しく載っていますので、ステンシル NO を伝えてくれれば、皆さんへお世話することが可能です。

購入された方には、型を使う時のコツのようなものをお教え出来ると思います。

とにかく、BODY PAINT は流行る！というふうに私は見っていますが、読者の皆さんはどんなふうにお考えでしょうか？

今回は、私の“知ってもソンしないコラム”はお休みさせてもらって、先日巣立っていった UMI が帰る少し前に書き残していった“弟子の独り事”で、この Vol.06 をしめたいと思います。前回、今回と UMI はいいこと言ってくれています。親方だった私としては、うれしいかぎりです。立派に卒業していった UMI の言葉を皆さん噛み締めて読んでやって下さい！

弟子の独り言・・・

こんにちは、今回で早6回目、そろそろ、購読者の皆さんも、僕がどれほどイタイ奴かわかってきたと思い・・・まあ、それはさて置き、やはりフシメという事で気合入れ良い事書きたいと思います。でも、たぶん最終的に読み直したら気合入れすぎて空回りしているのが書く前から目にみえてます。今回もきっとそんなオチがありますが気にせず最後まで付き合っていただければ幸いです。

今回は、特別テーマは設けません、というより、正直思いつきません。でも、書かないとすすまないのととりあえず何か書いてみます、絵と一緒に、とりあえずかいてみます。

えっと、よく SCHOOL に来られる生徒さんで、「絵心が無いのですが・・・」と言うかたが結構多いです。きっと本を読んでも方でも何人もいると思います。しかしどうでしょう？絵心とはなにか？親方は芽生えるものだといいましたが僕個人の意見では、もう皆さんには芽生えてると思います。というよりむしろ、SCHOOL に行こうっておもった時点で、本を買おうって思った時点であるとおもいませんか？絵心が。エアブラシで絵を描きたいって思ったらそれはまぎれも無く絵心ではないのでしょうか？購読者の方がどのような考えでこの本を購読しているのかはわかりません、なかにはエアブラシとはなにか？と、たんに知りたい方や、塗装のみに役立てたいというかたもいらっしゃると思うので、すべての方に絵心があるとはいいません。といより僕にとって絵心というものは他人に持たされるものでなく自分で持つものとおもってますから。なので強制はできませんが、絵を描こうとおもって、鉛筆やハンドピースを持つ事、絵を見て素晴らしい、と思える心（わかりやすくいえば TOTAL-T のギャラリーをみてすげ～って思った気持ち）それは、絵心です。

ではそろそろ、あったまってきたので良い事いいたいと思います。よくメモしとくように！・・・すいません調子づきました。イタイ、イタイ。僕の解釈では絵とは、とてつもなく大きく分けると2種類です。平面（ベタ）と立体（3D）ですね。どういう違いがあるかというと、光と影があるかないかです。ちなみにアニメと写真の違いではないですよ。皆さんが何気なく見ているこの本に描かれたイラストもよく見ていただけたら光と影が存在します。一般的に綺麗と評価されるものが立体で書かれた絵ですかね。まあこれも人それぞれですが。では立体に描くにはどうしたらよいかわかると思いますが、これも光と影としかいいようが無い。平面（キャンバス）に立体を表現するのですからやはり光と影です。用は目の錯覚で絵に形を持たせる、その、光と影をうまく使い立体の絵を簡単に描ける道具がエアブラシということです。そう考えれば、あくまでもエアブラシハンドピースは絵を描く道具です。もちろん鉛筆や筆でも絵に立体を持たせることは出来ます。むしろそっちの方が技術がいるかとおもいます。ということはキーポイントになっていくのは明るい色（光）と暗い色（影）の使い方ですね。そろそろ空回りして来たところで終わりにさせていただきます。最後にいま、目にしている形あるものすべてに光と影が存在します、むしろ存在しなければその形は目には映らないと思います。試しに部屋の電気を消してもらえればわかります・・・おやすみなさい。

海前

この本と共に勉強していきたい方のための道具選び

これから AIRBRUSH を始めようとする購読者のみなさんへ
私がお勧めする道具等を紹介していきます。
私が経験をもとに厳選したもので、
安心してご使用できると思います。
ほしいものがあればご購入ください！
その道具を使いながら、私と一緒に勉強していきましょう！
購入しなくても、いっこうにかまいません。
参考にするだけでもいいと思います。
道具は財布と相談しながら、少しずつ揃えていけばいいと思います。
この本と共に勉強していくために、
必要なものを少しずつ紹介していきます。
よけいなものは紹介しませんので、ご安心ください。



TOOL の購入を希望される方は・・・

※付属のビデオ CD から購読者専用ページに入れるようになっています。

購読者専用ページ→TOOL コーナーよりお申し込み下さい。

道具に関してのご質問やご要望などありましたら、遠慮なくお申し付けください！

ビデオ CD とオマケについて・・・

ビデオ CD を見ていただきたい！

今回のビデオ CD (Vol.06)

時間を計算するのも面倒なぐらいの長時間収録です。

手作りでこのビデオ CD も作っているために、画像が悪かったり、

しゃべっている声が聞きづらかったりするかもしれませんが、

どうかお許し下さい。

しかし、内容は充実していると思います。

このビデオ CD を見なければ始まりません！

オマケで遊んでいただきたい！

けして怪しい粉ではありません！（笑）

塗料に混ぜて使う“調味料”とお考え下さい。

いろんな塗料に混ぜて遊んでみて下さい。

もちろん、本番の作品作りで利用しても OK です。

CD の見方は・・・

CD をパソコンに入れると、自動的にインターネットエクスプローラが立ち上がるはずですが。

あとはメニューの中身を見るだけです。

うまく見られない場合は CD の中身をエクスプローラ等で表示させ、一つ一つのデータをクリックしてみてください。

見られないといった連絡も現在数件ありましたが、CD が不良ではなく、ほとんどの場合がパソコンの不具合や CD プレーヤーの不具合、またはインターネットエクスプローラやメディアプレーヤーがインストールされてない場合です。

うまくいかない場合は、パソコンのことを知っている近くの方に相談してみてください。

万一、CD が不良の場合は CD を再度お送り致しますので、ご連絡下さい。

マッキントッシュのパソコンでは見られないかもしれませんがその点はご了承下さい。



編集後記

“TOTAL-T が教える HOW TO AIRBRUSH VOL.06 “ いかがでしたか？

今回の本の作成は今までで、一番短く即席仕上げとなってしまいましたが、ビデオ CD の収録時間や内容は今までの中で最高のものとなったのではと思います。

私がどう思うか？より購読者の皆さんがどう思うか？感じるか？が、この本の肝心なところなので、皆さんからの声を聞かないことには今のところ何とも言えませんが、とにかく、無事に完成することが出来ました。

次回もまた、一生懸命がんばりたいと思っています。それではまた！

本の予約について・・・

当ホームページ→**BOOK**→**購読申込フォーム** よりご予約ください。

自分の予約状況を知りたい場合や予約を解除したい場合はメール等でお問い合わせください。

尚、携帯電話からでも当ホームページ <http://total-t.com>

にアクセスしていただければ購読予約ができるようになっていきますのでご利用ください。

不具合等を発見されましたら遠慮なくお伝え下さい。

★AIRBRUSH PAINT & TOTAL-TECH★

TOTAL-T

〒920-2104 石川県石川郡鶴来町月橋町 416-1

TEL 0761-93-9002 FAX 0761-93-5551

URL <http://total-t.com> Mail toshi@total-t.com

最後まで読んでいただきありがとうございました。